

社会安全学部の教員の養成の目標

<社会安全学部 安全マネジメント学科>

社会安全学部安全マネジメント学科では、安全・安心な社会の創造に寄与することを目標に、防災・減災対策や事故防止、危機管理のための政策立案とその実践に関する学びを通じて、高度な情報処理能力を有した社会貢献型の人材を養成する教育を推進し、地域的・国家的・国際的な安全問題を総合的に分析、考察、マネジメントする方法を備えた、安全・安心な社会の実現に貢献できる防災・減災のスペシャリストの養成を目指している。この教育理念のもと、(1)地域生活と社会活動上の安全問題を読み解く基礎的知識を修得し、専門的観点からその問題解決に向けた方策を立案し実践できる技能、(2)安全の維持・継承の仕組みを理解し、安全確保のための方策を考案し、異分野の専門家や技術者とのコミュニケーションを通して「考動力」を発揮し、社会に貢献することができる能力、(3)安全問題の解決のために自ら課題を探求し、社会的視野をもって主体的に課題に取り組むとともに、異分野の専門家や技術者と協働することができる態度をそれぞれ身に付けるとともに、教科及び教職に関する体系的な教職課程カリキュラムの履修を通じて、教科指導及び生徒指導等における実践的指導力並びにそれらを下支えする強い使命感、教育的愛情、コミュニケーション力等、教師に求められる人格と力量を兼ね備える、豊かな感性と個性を持った教員を養成する。

<社会安全学部 安全マネジメント学科 中一種免 社会>

基礎となる学部専門教育において、現代社会が直面する安全上の諸問題を読み解き、その解決策を提案する実践的な能力に優れた文理融合型人材の育成を目的に、法学・経済学・社会学・工学・医学・心理学など、文系・理系の垣根を越えた学際的な学びにより、これらの既存の学問分野を総合して、私たちが生きる社会や人間、自然を、安全・安心というレンズを通して洞察し、自然災害や人為的な災害である社会災害の最小化を目指し問題を解決できる能力を養成するカリキュラムを編成している。具体的には、社会安全学の土台となる基礎知識や最新の専門知識を幅広く段階的・体系的に修得したうえで、「社会災害マネジメント科目」（現代の産業社会において発生するさまざまな事故や事件を対象とし、事故防止、減災、労働安全、ヒューマンエラー、リスクマネジメント、危機管理、企業の社会的責任、安全のための法システムなどについて学ぶ。）及び「自然災害マネジメント科目」（自然災害のメカニズムを分析し、防災・減災の方法や被災者支援、復旧・復興計画、自助・共助・公助〔行政の役割と自己責任、公共政策〕の在り方、危機管理体制などについて学ぶ。）の学びにより防災・減災、事故防止、危機管理についての専門性を高め、また、社会調査・事故調査に関する実践的な実習、高度な情報処理実習などを通じて専門的知識と技能を修得し、個々が設定するテーマ・課題を探究することによって自然災害や事故の現状を総合的に理解し政策を立案できる高度な専門知識と実践力を養成している。これらの系統立てた学びの中で豊かな教養と高度で深い専門的学芸を学位プログラムとして修めており、中学校「社会」の教職課程では、その学位にふさわしい高い専門性と知識能力を基盤としながら、(1)わが国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料からさまざまな情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする、(2)社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う、(3)社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養されるわが国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めるなど、社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を育成できる質の高い教科指導力を有し、総合的な学習の時間、生徒・進路指導及び学校経営・学級経営においてもこれらの学問的独自性と教育の特色を活かした専門性開発により、学校現場においてリーダーシップを発揮しうる教員を養成する。

<社会安全学部 安全マネジメント学科 高一種免 公民>

基礎となる学部専門教育において、現代社会が直面する安全上の諸問題を読み解き、その解決策を提案する実践的な能力に優れた文理融合型人材の育成を目的に、法学・経済学・社会学・工学・医学・心理学など、文系・理系の垣根を越えた学際的な学びにより、これらの既存の学問分野を総合して、私たちが生きる社会や人間、自然を、安全・安心というレンズを通して洞察し、自然災害や人為的な災害である社会災害の最小化を目指し問題を解決できる能力を養成するカリキュラムを編成している。具体的には、社会安全学の土台となる基礎知識や最新の専門知識を幅広く段階的・体系的に修得したうえで、「社会災害マネジメント科目」（現代の産業社会において発生するさまざまな事故や事件を対象とし、事故防止、減災、労働安全、ヒューマンエラー、リスクマネジメント、危機管理、企業の社会的責任、安全のための法システムなどについて学ぶ。）及び「自然災害マネジメント科目」（自然災害のメカニズムを分析し、防災・減災の方法や被災者支援、復旧・復興計画、自助・共助・公助〔行政の役割と自己責任、公共政策〕の在り方、危機管理体制などについて学ぶ。）の学びにより防災・減災、事故防止、危機管理についての専門性を高め、また、社会調査・事故調査に関する実践的な実習、高度な情報処理実習などを通じて専門的知識と技能を修得し、個々が設定するテーマ・課題を探求することによって自然災害や事故の現状を総合的に理解し政策を立案できる高度な専門知識と実践力を養成している。これらの系統立てた学びの中で豊かな教養と高度で深い専門的学芸を学位プログラムとして修めており、高等学校「公民」の教職課程では、その学位にふさわしい高い専門性と知識能力を基盤としながら、(1)選択・判断の手掛かりとなる概念や理論及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解するとともに、諸資料からさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする、(2)現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したりする力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う、(3)よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、人間としての在り方生き方についての自覚や、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深めるなど、社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成できる質の高い教科指導力を有し、総合的な学習の時間、生徒・進路指導及び学校経営・学級経営においてもこれらの学問的独自性と教育の特色を活かした専門性開発により、学校現場においてリーダーシップを発揮しうる教員を養成する。